

令和元年度 京都市国民健康保険事業特別会計決算概要

1 基礎計数

項 目	元年度予算	元年度 実績見込	増△減	(参考) 30年度実績
一般被保険者数	304,000人	303,233人	△767人	311,970人
一般世帯数	206,000世帯	205,538世帯	△462世帯	208,567世帯
一般総医療費	116,665百万円	114,410百万円	△2,255百万円	114,539百万円
一般1人当たりレセプト件数	16.03件	15.82件	△0.21件	15.59件
一般1件当たり医療費	23,941円	23,848円	△93円	23,553円
一般1人当たり医療費	383,766円	377,299円	△6,467円	367,147円

ポイント

○ 一般被保険者数が予算時点の見込に比べ微減

ほぼ予算時の見込みどおりとなったものの、雇用情勢の改善等によりわずかに減少している。

○ 一般総医療費が予算時点の見込に比べ減少

一定の伸び率を見込んで医療給付費の予算編成を行ったが、1人当たり医療費が想定ほど伸びなかったことや被保険者数が減少したことから、総医療費が見込よりも減少したものである。

2 財政状況

(単位:百万円)

項 目		01予算額(A)	01決算 見込額(B)	増△減 (B - A)	(参考) 30決算額(C)	増△減 (B-C)	
一般医療分	歳入	保険料	16,550	16,509	△ 41 ※②	16,843	△ 334
		国庫支出金等	3	3	0	6	△ 3
		府支出金	99,368	98,274	△ 1,094 ※③	98,184	90
		一般会計繰入金	13,967	14,006	39	12,304	1,702
		京都府基金貸付金	0	0	0	660	△ 660
		基金繰入金	1,183	1,183	0	0	1,183
		その他	262	311	49	286	25
	小計	131,333	130,286	△ 1,047	128,283	2,003	
	歳出	給付費	98,606	97,473	△ 1,133 ※③	96,891	582
		納付金	27,715	27,715	0	25,604	2,111
		保健事業費	1,129	1,084	△ 45 ※③	1,063	21
		基金積立金	0	0	0	3,720	△ 3,720
		京都府基金償還金	0	660	660 ※①	0	660
		その他	3,883	3,441	△ 442 ※④,⑤	5,237	△ 1,796
小計	131,333	130,373	△ 960	132,515	△ 2,142		
差引過△不足額	0	△ 87	△ 87	△ 4,232	4,145		
後期高齢者支援分	歳入	保険料	5,998	5,955	△ 43 ※②	6,079	△ 124
		一般会計繰入金	2,422	2,436	14	2,489	△ 53
		京都府基金貸付金	0	0	0	240	△ 240
		基金繰入金	185	185	0	0	185
	小計	8,605	8,576	△ 29	8,808	△ 232	
	歳出	納付金	8,605	8,605	0	8,730	△ 125
京都府基金償還金	0	240	240 ※①	0	240		
小計	8,605	8,845	240	8,730	115		
差引過△不足額	0	△ 269	△ 269	78	△ 347		
介護分	歳入	保険料	2,080	2,069	△ 11 ※②	2,114	△ 45
		一般会計繰入金	790	802	12	820	△ 18
		京都府基金貸付金	0	0	0	151	△ 151
		基金繰入金	492	492	0	0	492
	小計	3,362	3,363	1	3,085	278	
	歳出	納付金	3,362	3,361	△ 1	3,045	316
京都府基金償還金	0	151	151 ※①	0	151		
小計	3,362	3,512	150	3,045	467		
差引過△不足額	0	△ 149	△ 149	40	△ 189		
退職者等医療分	歳入	保険料	31	18	△ 13 ※②	100	△ 82
		府支出金	482	116	△ 366	521	△ 405
		京都府基金貸付金	0	0	0	74	△ 74
		その他	6	3	△ 3	3	0
	小計	519	137	△ 382	698	△ 561	
	歳出	給付費	487	115	△ 372	530	△ 415
		納付金	31	31	0	153	△ 122
		京都府基金償還金	0	74	74 ※①	0	74
その他		1	0	△ 1	1	△ 1	
小計	519	220	△ 299	684	△ 464		
差引過△不足額	0	△ 83	△ 83	14	△ 97		
歳入合計(A)	143,819	142,362	△ 1,457	140,874	1,488		
歳出合計(B)	143,819	142,950	△ 869	144,974	△ 2,024		
単年度収支(A-B)	0	△ 588	△ 588	△ 4,100	3,512		

※一般会計繰入金の内訳

	01予算額(A)	01決算 見込額(B)	増△減 (B - A)
保険基盤安定繰入金	8,956	9,032	76
財政支援分繰入金	8,223	8,213	△ 10
計	17,179	17,245	66

(参考) 30決算額(C)	増△減 (B-C)
9,152	△ 120
6,461	1,752
15,613	1,632

収支不足の主な要因

(括弧内の金額は収支への影響額)

合計 △ 6 億円

① 京都府基金償還金 (△ 1 1 億円)

平成30年度決算時の累積黒字が13億円となり、平成30年度に借り入れた京都府財政安定化基金からの借入額以上となったため、令和元年度に全額償還をおこなった。

② 保険料収入の減 (△ 1 億円)

令和元年度予算においては、徴収率を94.12%で見込んでいたが、実績は94.54%となり、0.42ポイント上昇した。

被保険者数、繰越調定額が予算時の見込みと比べ減少したこと等により、保険料収入全体としては△3億円になるところであったが、徴収率の向上により△1億円となった。

③ 府支出金の増 (+ 1 億円)

保険給付費等交付金(特別交付金)について、システム改修費分や未就学児医療費に係る交付金額が想定よりも確保できたことにより、1億円の黒字要素となった。

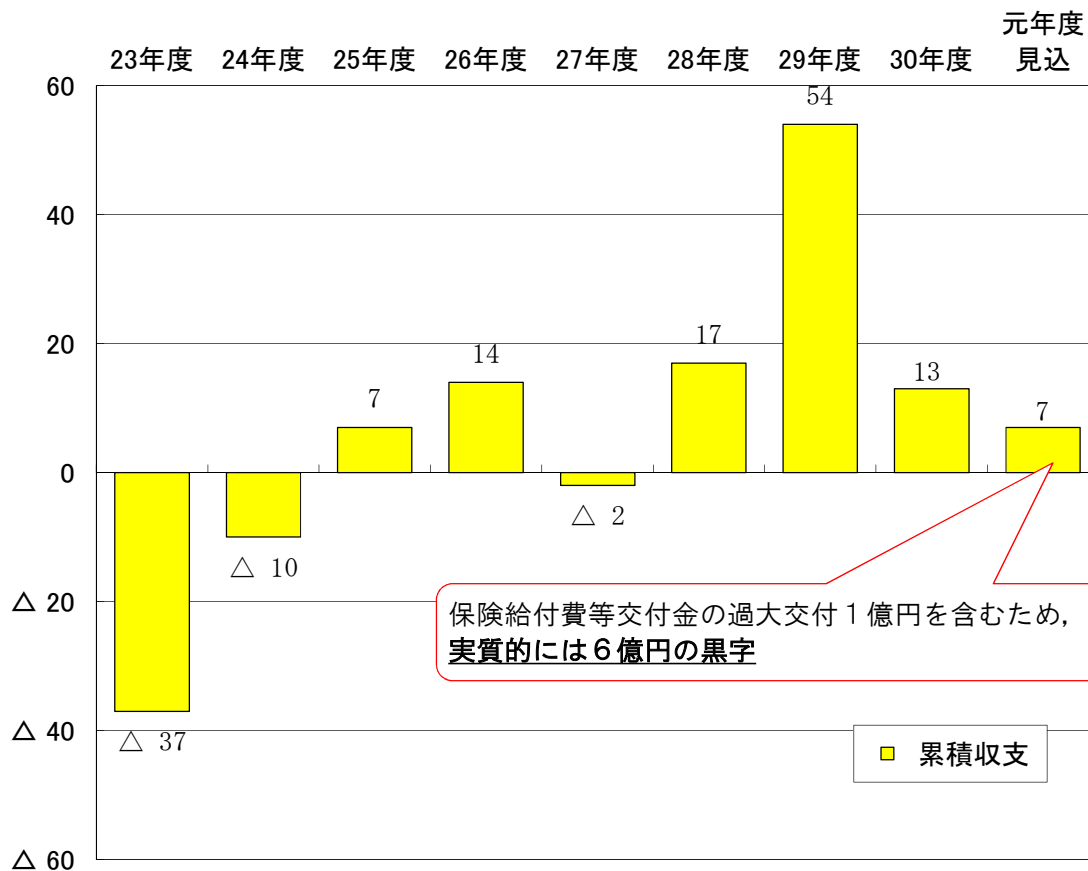
④ システム改修費の減 (+ 2 億円)

大型汎用コンピュータオープン化事業の稼働時期の変更により、国保システムの改修を一部先送りしたため、システム改修費が減少した。

⑤ その他経費の節減等 (+ 3 億円)

3 累積収支の推移

(億円)



令和元年度末累積収支 7億円の黒字 (保険給付費等交付金の過大交付を差し引くと6億円の黒字)

令和元年度決算見込においては、△6億円の収支不足となり（ただし京都府基金返還金を除くと5億円の収支改善）、累積収支は7億円の黒字となった。

しかしながら、この7億円には、令和元年度に給付費に対する財源として京都府から交付を受けた保険給付費等交付金が約1億円の過大交付となっており、翌年度の保険給付費等交付金で調整されるため、実質的には6億円の黒字となる。

引き続き、保険料の徴収率向上等による歳入の確保に努め、後発医薬品の普及啓発、特定健康診査や健康啓発事業等による被保険者の健康づくりなど医療費の適正化を推進し、国保運営の安定化に努めていくとともに、被保険者が将来にわたり安心して医療を受けられる制度となるよう国を被保険者とした医療保険制度の一本化と、それが実現するまでの間の更なる財政支援の拡充について国に対して強く要望していく。